

火気使用工事を安全に開始して...

2004年5月



...バーンという(衝撃)音で工事を終らせないように!

何が起ったか

一人の溶接工が、この流量発信器の容器の近くで研磨作業を行っていた。少量の漏れが発信器組立品にあり、その容器は引火性蒸気が充満していた。その容器からの漏れ蒸気は、研磨のスパークにより着火し小爆発を起こし溶接工を負傷させ発信器を破壊した。

運転部門では、火気使用工事を許可する前に、そのエリアでのガステストを行った。しかし、容器からの漏れは検出されないうままであった。



PSIDの スポンサーは
[火気使用工事] 参照

爆発事故を防ぐためにあなたにできること

運転

- ✓ 火気使用工事の施工予定地域を見回すこと。そして全ての可能性がある発生源の徹底的なガスチェックをすること—明らかなものだけでない。(この事故のような)小さな密閉部の中或いは近辺でチェックするときは、特別に注意すること。
- ✓ もしも自分の職務で、ガス検知器の使用を義務付けられているならば、自分自身が取り扱いの訓練を受けているべきである。次のことを、思いだすこと。検知器は製造会社が推奨するキャリブレーション(較正)を受けなければならない。そうしないと、正しい読みを示さないかもしれない。
- ✓ どこに洩れが発生し得るか心得て置き、そこでのサンプリングは確実に実施すること。もしも、条件が変化しそうならば、連続的モニタリングを考慮すること。

保守

- ✓ 可燃物の発生源を確かめるため作業現場を見回し、どんな異臭にも気を付けること。着火源を与えようとしているのだから、必要なのは燃料だけだということ、忘れないこと。
- ✓ ガステストが行われた正確な場所を運転員に尋ねること。もしも、テストされていないならば、実施するように主張すること。それがすべての潜在源となりうるエリアをカバーしていなかったならば、再テストするように強く要求すること。

火気使用工事 + 検出されないガス漏れ = 損害 と 傷害!

AIChE© 2004. 不許複製。非営利的な教育目的のための複製は奨励する。ただし、販売目的のための複製は、CCPS以外のいかなる者に対しても禁止する。連絡先: ccps_beacon@aiche.org or 212-591-7319